

戦略的大学連携支援事業

科学 Try アングル岡山」 行事等 報告書

行事名	平成21年度留学生国際シンポジウム		
担当部門・機関	国際交流部門・津山工業高等専門学校		
開催日時・期間	2009年11月7日(土) 13:00~17:00	会場	岡山国際交流センター

《概要》第一部としてパナソニック(株)本社の海外採用責任者による基調講演,第二部として海外を含め,5名の連携機関を卒業した留学生による一般講演が行われた。第三部は基調講演を含めた6人の講演者によるパネルディスカッションが行われたが,参加者からの質疑および回答が中心であった。9カ国からの参加者があったが,日本語と英語の双方通訳をつけることによって,活発な質疑応答が行われた。また,後援2企業から製品のサンプル,パンフレットの提供を受け,展示した。

《参加者》

表1 参加者内訳

留学生,学校関係者および講演者を含めた全参加者は105名でその内訳は表1に示すとおりである。

	留学生	学校関係者
岡山大学	18	7
岡山理科大学	7	4
倉敷芸術科学大学	16	3
津山工業高等専門学校	15	10
岡山県など一般		19(留学生含)
講師	5	1
合計	61	44

《報告事項》1. プログラムは下記のとおりである。

事項	時間	題目	講師	担当
開会挨拶	13:00~		原田 勲	原田寛治
基調講演	13:10~	企業が留学生に求めること	柿花健太郎	原田寛治
一般講演	14:15~	留学生に対する日本の支援	マーマダール・ラーマン ラメシュ・チャンドラン 宮永アディア 李 今月 王 峰	加藤 学
	14:30~	人生の第2章		
	14:45~	休憩		
	15:00~	日本で就職するには		
	15:15~	日本企業文化に対する印象		
	15:30~	自信を持って就職活動を行いましょう		
パネルディスカッション	15:50~	留学生のための就職支援	松下尚史	
閉会挨拶	16:55~		稲葉英男	原田寛治

2. 講演概要

(1) 「企業が留学生に求めること」(基調講演, 柿花健太郎)

日本では1年半前から就職活動が始まり、4月の2週間が最も重要な時期で自分の強みをよく知って会社を選ぶことなど就職活動のありかたを話した。そして働く事は言われた事を処理するだけではなく、自分の付加価値をつけてこそ仕事といえと働く事の心構えを話した。自社を例にして、企業とはどのようなものか、また企業の求める人材として留学生は国際性があるのが強みであると話した。最近の製品作りはグローバル化しており、日本経験者の現地採用が拡大している。最後に、日本で勤務する場合には、長期間勤める気持ちが必要で、日本文化も理解出来る日本語能力が必要であると締めくくった。

(2) 「留学生に対する支援」(モハメド・マーマダール・ラーマン)

今、多くの外国人が日本への留学を望んでおり、日本政府も支援に力をいれている。日本語が上手になることが必要で、失敗を恐れるな、失敗からは多くのことを学べると積極的に活動するように話しかけた。

(3) 「人生の第2章」(ラメシュ・チャンドラン)

日本企業で働くためには、日本語ができることのみならず日本文化を理解していることが大切で、日本企業の習慣として挨拶と5Sが重視されている。就職する際には、専門知識に加えてコミュニケーション能力が必要で、職場の環境に慣れる、積極的に行事に参加することを話した。

(4) 「日本で就職するには」(宮永アディア)

語学力と異文化への適応性に加えて専門知識が重要である。日本人の考え方を理解すること。就職活動は早めに行うことが大切であると話した。

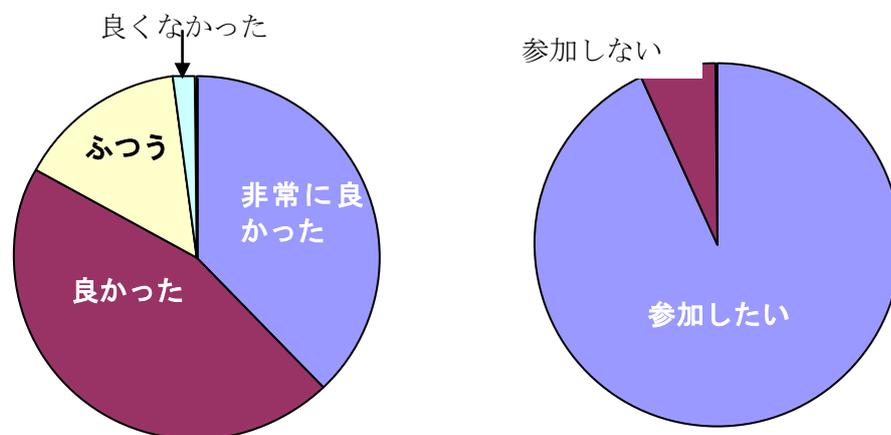
(5) 「日本企業文化に対する印象」(李 今月)

日本人は礼節を重んじる、日本語が上手でなかったら、失礼になるので語学力が重要である。学生時代になすべきこととして、毎日新聞を読む事、日本人とつきあう時間を増やす、資格をとっておくことなどを話した。

(6) 「自信を持って就職活動を行いましょう」(王 峰)

就職に際しては、まず就職部に行って情報を得、さらにゼミの先生に相談するとよい助言が得られる。会社説明会に参加し、正直に自分の言葉で伝えることが大切。さらに言葉がよくわからなくても自信をもってあきらめずに就職活動をすることが大切。また、自分が勉強した分野と関係ない仕事も視野に入れる、日本での留学経験は人生の宝物であるから、就職して自分に合わないからとすぐに辞めないことなどを話した。

3. アンケート



シンポジウムに対する印象への問いには非常に良かったと良かったを合わせると83%が、また同種の催しへの今後の参加への問いには93%がまた参加したいと好評であったことがうかがえる。

(感想)

- ・シンポジウムは大変良かった。卒業後、仕事を求めるために、先輩のアドバイスが役に立つと思う。
- ・先輩の色々な知識をもらって将来に役に立ちます。
- ・海外や日本に働くための条件を教えてくれるので非常に良かった。
- ・大学進学や就職試験の面接時、いい面接結果を残すことについてもっと聞きたい。
- ・パナソミックの採用情報が聞けてよかった
- ・今回のプログラムは日本の会社や日本で働きたい自分にとってなにをすればいいかがわかってとても感謝しています。
- ・国内、国外両方から話が聞けてよかった。
- ・将来就職のために自分に強みが必要だとわかってよかった
- ・柿花氏の講演は単なるグローバルゼーション礼賛ではなく、ポイントをしっかりおさえていて、さすがにパナソニックだと感じた。
- ・母国の先輩のスピーチが聞けて、親しかった
- ・もっと企業の参加があればよかった
- ・一人当たり短時間の講演であきがなくよかった。
- ・日本の文化についてシンポジウムがあればよい
- ・自分は日本人ですが、外国人から見た日本の文化の違いがきけてよかった。
- ・学生と社会人の違いがわかった
- ・パネリストの話聞いて自分もそうなりたと思った
- ・留学と日本企業の間でブリッジパーソンになれるそして強みを生かせる同感である
- ・留学生の就職支援の足がかり的なシンポジウムとして、とてもよかった
- ・学校では得られない大事な講演で勉強になりました。日本で働くためにもっとしっかりしないといけないと思いました。
- ・一人一人の発表はオリジナルで面白く、熱意を感じた。中国語通訳をつけると参加者はもっと増えると思われる。



基調講演を聴く参加者（写真左）



「人生の第2章」と題して講演するラメシュ氏



「日本企業文化に対する印象」を講演する李今月氏（写真右）



パネルディスカッションの様子
（写真左）